

**一般競争（指名競争）参加資格審査申請書（物品製造等）
の作成要領**

国立大学法人東北大学

平成22年1月改訂版

一般競争（指名競争）参加資格審査申請書（物品製造等）の作成要領

等級の算出方法につきましては以下のとおりです。

付与数値

摘要	段階	数値 (製造)	数値(販売、 役務提供等、買受け)
年間平均生産高等	200億円以上	60	65
	100億円以上200億円未満	55	60
	50億円以上100億円未満	50	55
	25億円以上50億円未満	45	50
	10億円以上25億円未満	40	45
	5億円以上10億円未満	35	40
	2.5億円以上5億円未満	30	35
	1億円以上2.5億円未満	25	30
	5,000万円以上1億円未満	20	25
	2,500万円以上5,000万円未満	15	20
	2,500万円未満	10	15
自己資本額	10億円以上	10	15
	1億円以上10億円未満	8	12
	1,000万円以上1億円未満	6	9
	100万円以上1,000万円未満	4	6
	100万円未満	2	3
流動比率	140%以上	10	
	120%以上140%未満	8	
	100%以上120%未満	6	
	100%未満	4	
営業年数	20年以上	5	10
	10年以上20年未満	4	8
	10年未満	3	6
生産設備の額 (製造のみ)	10億円以上	15	-
	1億円以上10億円未満	12	-

	5,000万円以上1億円未満	9	-
	1,000万円以上5,000万円未満	6	-
	1,000万円未満	3	-

資格の種類別等級区分

区分	数値	等級
物品の製造	90以上	A
	80以上90未満	B
	55以上80未満	C
	55未満	D
物品の販売	90以上	A
	80以上90未満	B
	55以上80未満	C
	55未満	D
役務の提供等	90以上	A
	80以上90未満	B
	55以上80未満	C
	55未満	D
物品の買受	70以上	A
	50以上70未満	B
	50未満	C

【共通事項】

1. 申請書は、黒のボールペン又は万年筆で、一字一字わかりやすく丁寧に記入してください。
2. 記載事項の記入は、申請日現在で記入してください。
また、決算に関する事項については、申請日以前の直近のものを原則とし、金額は、千円単位（百円以下を四捨五入）で記入してください。
3. フリガナの欄は、カタカナで記載し、その際、濁点・半濁点は1文字として扱ってください。

【外国の事業者が申請する場合】

1. 押印の必要があるものについては、署名をもって代えることができます。
2. 登記事項証明書に代えて、当該国の所管官庁又は権限のある機関の発行する書面とすることができます。
3. 申請書は日本語で作成するとともに、添付書類のうち外国語で記載された事項については、日本語の訳文を添付してください。
4. 申請書類の金額表示は、日本国通貨とします。

【添付資料】

1. 公的機関が発行する書類については、発行日から3か月以内のものに限ります。
2. 添付書類は、コピー機等により複写したもので、内容が鮮明であれば写しでも可能です。

資格申請（新規または更新）の場合

- ・ ~ を全て添付の上、提出してください。

登記簿謄本または登記事項証明書（法人の場合） または身元を証明する書類（個人の場合）

登記簿謄本及び登記事項証明書とは、商業登記法（昭和38年法律第125号）第6条第5号から第9号までに掲げる株式会社登記簿等に記録されている事項の証明書です。

身元を証明する書類に関しては、住民票、運転免許証の写し等を添付してください。

営業経歴書

営業経歴書とは、申請者が自ら作成している会社の沿革、組織図、従業員数等の概要、営業品目、営業実績及び営業所（地域を代表して主に契約を締結する本店、支店、事務所等）の所在状況についての記載を含んだ書類です（上記内容が記載されていれば、パンフレット等でも可）。申請日前1年以内に作成したものを添付してください。

財務諸表（法人の場合）又は営業用純資本額に関する書類及び収支計算書（個人の場合）

財務諸表とは、申請者が自ら作成している直前2年間の事業年度分に係る貸借対照表、損益計算書及び利益金処分（損失処理）計算書です。また、営業用純資本額に関する書類及び収支計算書とは、確定申告書等財務諸表に類する書類です。

適格組合にあっては、組合及び構成組合員のそれぞれに係る財務諸表類を添付してください。

納税証明書

法人の場合はその3の3「法人税」及び「消費税及地方消費税」について未納税額のない証明用を、個人の場合はその3の2「申告所得税」及び「消費税及地方消費税」について未納税額のない証明用を添付してください。

適格組合にあっては、組合及び構成組合員のそれぞれに係る納税証明書を添付してください。

変更届の場合

- ・変更申請の場合は、以下のとおり、変更する項目により必要な添付書類が異なります。必要な書類のみ添付の上送付してください。

ア「住所」、「商号又は名称」又は「代表者氏名」の場合

資格審査結果通知書（写）

登記簿謄本または登記事項証明書(法人の場合)、または変更項目を確認できる書類（住民票、運転免許証の写し等）(個人の場合)

イ「営業所」の場合

資格審査結果通知書（写）

営業所の所在状況が確認できる書類

ウ「希望する資格の種類」又は「営業品目」の場合

資格審査結果通知書（写）

直近の財務諸表（「希望する資格の種類」に「物品の製造」を追加する場合のみ）

上記以外の項目についての変更はできません。

申請書作成要領	
01 定期・随時の確認	<p>次の要件に該当する方の番号に 印を付けてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 定期...定期審査受付期間中の申請の場合 (受付期間 平成22年1月12日～平成22年1月31日) ・ 2 随時...定期審査受付期間外の申請の場合 (受付期間 平成22年2月1日～平成25年3月31日)
02 新規・更新の確認	<p>次の要件に該当する方の番号に 印を付けてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 新規...平成22・23・24年度に有効となる資格の申請を初めて行う場合 ・ 2 更新...平成19・20・21年度に有効な資格を有しており、その有効期間の更新を申請する場合
03 組合・公益法人・個人その他の確認	<p>次の要件に該当する番号いずれかに 印を付けてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 組合...企業組合、協業組合、事業協同組合、事業協同小組合、協同組合連合会、商工組合、商工組合連合会、商店街振興組合、商店街振興組合連合会の場合 ・ 2 公益法人...公益法人の場合 ・ 3 個人...個人で事業を営んでいる場合 ・ 4 その他...株式会社、有限会社、合資会社、合名会社、税理士法人等の場合
04 受付番号	当該欄は記入不要です。
05 業者コード	当該欄は記入不要です。
06 適格組合証明	<p>経済産業局長(経過措置として、通商産業局長が発行した証明書の有効期間内においては、引き続き有効とする。)又は沖縄総合事務局長より、官公需適格組合証明書の発行を受けている適格組合は、証明書年月日及び番号を記入してください。</p>
07 郵便番号	<p>郵便番号及び住所を記入してください。なお、外国業者が申請する場合は、本店の所在する国名及び所在地名を記入してください。</p> <p>都道府県名にはフリガナは必要ありません。</p> <p>「丁目」、「番地」は「 - (ハイフン)」により記入してください。</p>
08 住所	
09 商号又は名称	<p>商号又は名称及び代表者氏名(役職、氏名)を記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人の商号又は名称については、株式会社等法人の種類を表す文字については略号を使用せず、登記事項証明書の通りに記入してください。 ・ 姓と名の間は1文字分あけてください。 ・ 個人等の方で役職が無い場合は、「代表」と記入してください。 ・ 印には代表者印(個人の場合は個人印)を押印してください。
10 代表者氏名・代表者印	

<p>11 担当者氏名 12 電話番号 13 F A X 番号</p>	<p>申請手続の担当者(責任者)の氏名、電話番号、F A X 番号を記入してください。 なお、担当者氏名欄は、姓と名の間を1文字分あけてください。電話番号、F A X 番号は、それぞれ左詰めで、「 - (ハイフン)」を入れて記入してください。</p>
<p>14 主たる事業の種類</p>	<p>営業実績の割合等から主たる事業の種類の内いずれか1種類を選択して番号に印を付けてください。</p> <p>1 物品の製造...「日本標準産業分類」の大分類E - 製造業をいう。 2 物品の販売...「日本標準産業分類」の大分類I - 卸売・小売業をいう。 3 役務の提供等...「日本標準産業分類」の大分類F - 電気・ガス・熱供給・水道業、大分類G - 情報通信業、H - 運輸業、郵便業、J - 金融、保険業、K - 不動産業、物品賃貸業、L - 学術研究、専門・技術サービス、M - 宿泊業、飲食サービス業、N - 生活関連サービス業、娯楽業、O - 教育、学習支援業、P - 医療、福祉、Q - 複合サービス事業、R - サービス業(他に分類されないもの)をいう。 4 物品の買受け...国有林野事業特別会計で行う林産物の買受けを除く。</p> <p>次に、選択した主たる業種の詳細を、下記に従っていずれか1種類を選択してアルファベットに 印を付けてください。</p> <p>1 物品の製造を選択した場合...a ゴム製品・b その他 2 物品の販売を選択した場合...c 卸売・d 小売 3 役務の提供等を選択した場合...e ソフトウェア業又は情報処理・サービス業・f 旅館業・g サービス業・h その他 なお「g サービス業」とは、O - 教育、学習支援業、P - 医療、福祉、Q - 複合サービス事業、R - サービス業(他に分類されないもの)をいう。 4 物品の買受けを選択した場合...i 立木竹・j その他</p>
<p>15 営業所</p>	<p>営業所名称、郵便番号、所在地及び電話・F A X 番号を記入してください。</p> <p>「営業所名称」欄には、主に契約を締結する本店又は支店等担当部署の名称を記入してください。ただし、本社の場合は会社名のみを記入してください。 「所在地」欄には、担当部署の所在地を上段から左詰めで記入してください。 「電話・F A X 番号」欄には、上段に電話番号を、下段にF A X 番号をそれぞれ左詰めで、「 - (ハイフン)」を入れて記入してください。</p>
<p>16 希望する資格の種類等</p>	<p>物品の製造、物品の販売、役務の提供等、物品の買受けのうち、希望する資格の種類を選択(複数選択可能)して に 印を付けてください。次に、選択した資格の種類ごとに扱っている営業品目を選択(複数選択可能)し、 に 印を付けてください。なお、営業品目の具体的事例は別表のとおりです。</p>
<p>17 製造・販売等実績</p>	<p>直前々年度分決算及び 直前年度分決算の欄に、財務諸表類の損益計算書の「売上高」の金額(建設業、測量及び建設コンサルタントを除く。)を記入し</p>

てください。

前2か年間の平均実績高の欄には、 と の金額の平均を記入してください。

直前年度分決算とは、申請日より前に確定した直前の1事業年度分の決算のことです。

直前々年度分決算とは、直前年度よりさらに1年前の1事業年度分の決算のことです。

決算が1事業年度1回の場合は、右側のみ(半期決算の場合は両方)に記入してください。

個人企業から会社組織に移行した場合、他の企業を吸収した場合等にあつては、移行前の企業体、吸収前の企業体等の実績(ただし、申請者が行っている事業にかかわるものに限る。)を含めた実績を記入してください。

公益法人にあつては、事業収入のみを記入してください。

適格組合にあつては、組合と構成組合員のそれぞれの実績(申請をする事業と同じものに限る。)の合計を記入してください。

新規設立法人等で決算実績が2事業年度(12か月×2か年度)分の決算実績がない場合は、以下のように記入してください。

(a)「直前々年度分決算」がなく、「直前年度分決算」が12か月分または12か月に満たない月数の場合

直前年度分決算の欄に当該年度の「売上高」を記入し、更に同じ数値を前2か年間の平均実績高の欄に記入してください。

(b)「直前々年度分決算」が12か月分ない場合

- ・ 直前々年度分決算の欄と 直前年度分決算の欄にそれぞれの年度の高額を記入してください。
- ・ 前2か年間の平均実績高の欄には、以下の計算で求められる数値を記入してください。

決算額の合計(+) ÷ 決算期間の延べ月数 × 12か月

(例) 直前々年度分決算...9,000千円(決算期間:平成18年8月から平成16年3月までの8か月間)

直前年度分決算...15,000千円(決算期間:平成19年4月から平成20年3月までの12か月間)

前2か年間の平均実績高

= (9,000千円 + 15,000千円) ÷ (8+12)か月 × 12か月 = 14,400千円

18 自己資本額

払込資本金

直前年度分決算の値を記入してください。

- ・ 直前決算時の欄は、財務諸表類の貸借対照表より、払込資本金を記入してください。
- ・ 決算後の増減額の欄は、直前年度決算後に資本金の増減があつた場合に該当金額を記入してください。
- ・ 合計の欄は、上記の2つの金額を足した金額を記入してください。また、()

<p>準備金・積立金</p>	<p>には、外国資本の金額を再掲してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直前決算時の欄は、財務諸表類の貸借対照表より、法定準備金（資本準備金＋利益準備金）＋任意積立金を記入してください。 ・剰余（欠損）金処分の欄は、「利益処分」の準備金・積立金を記入してください。なお、準備金・積立金から取り崩した準備金・積立金がある場合は、その額を差し引いた額を記入してください。 ・決算後の増減額の欄は、直前年度決算後に準備金・積立金の増減があった場合に該当金額を記入してください。 ・合計の欄は、上記の3つの金額を足した金額を記入してください。適格組合にあっては、組合と構成組合員のそれぞれの値の合計額を記入してください。
<p>次期繰越利益（欠損） 金 計</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・剰余（欠損）金処分の欄は、「利益処分」又は「損失処分」の繰越額を記入してください。 ・合計の欄は、上記と同じ金額を記入してください。 ・各項目の計を記入してください。
<p>19 外資状況</p>	<p>外国資本がおおむね50%を超える場合に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 外国籍会社 [国名：] ...国籍が外国の会社である場合は、その国名を記入してください。 ・2 日本国籍会社 [国名：] ...国籍は日本の会社であるが、資本の100%が外国である場合は、その出資先企業等の国籍のある国名を記入してください。 ・3 日本国籍会社 [国名：] (比率： %) ...国籍は日本の会社であるが、資本の一部が外国である場合は、その出資先企業等の国籍のある国名及び出資比率を記入してください。
<p>20 経営状況</p>	<p>流動資産（千円）及び流動負債（千円）には、直前年度分決算の貸借対照表の流動資産・流動負債を記入してください。また、流動比率も記入してください。流動比率は小数点以下を四捨五入してください。流動資産があり、流動負債が0の場合は、（%）の欄に999%と記入してください。適格組合にあっては、組合と構成組合員のそれぞれの値の平均値を記入してください。</p>
<p>21 営業年数</p>	<p>会社設立後の営業年数を満年数で記入してください。途中、休業期間のある場合は、その分を差し引いてください。適格組合にあっては、組合と構成組合員のそれぞれの値の平均値を記入してください。</p>

<p>22 常勤職員の人数</p>	<p>常勤職員の人数を記入してください。</p> <p>適格組合にあつては、組合と構成組合員のそれぞれの値の合計人数を記入してください。</p>
<p>23 設備の額</p>	<p>上記 16 で物品の製造を選択した場合は、財務諸表類の貸借対照表の「有形固定資産」(ただし、減価償却後の額であること。)より、機械装置類には、機械装置の金額を、運搬具類には、車両運搬具の金額を、工具その他には、構築物、工具器具及び備品、建設仮勘定並びにその他の金額(土地、建物(その付帯設備を含む。))は含まないこと。)を記入してください。</p> <p>適格組合にあつては、組合及び構成組合員の合計額を記入してください。</p>
<p>24 主要設備の規模</p>	<p>上記 16 で物品の製造を選択した場合は、必ず当該業種に係る自社の主要設備をできるだけ詳細(品名及び台数)に記入してください。</p> <p>上記 16 で物品の製造を選択し、上記 24 が"0"の場合は理由を記入してください。</p>

「営業品目の具体的事例」

資格の種類	営業品目	説明（具体的事例）
物品の製造 （物品の販売も 同様）	(1) 衣服・その他繊維製品類	制服、作業服、寝具等
	(2) ゴム・皮革・プラスチック製品類	タイヤ、かばん、合成皮革等、FRP製灯塔等
	(3) 窯業・土石製品類	ガラス、陶磁器等
	(4) 非鉄金属・金属製品類	アルミ、ブリキ、洋食器、鉄塔、鋼管、ボルト、ナット、ワイヤーロープ、刃物、手工具、プイ（標体）等
	(5) フォーム印刷	
	(6) その他印刷類	オフセット印刷、軽印刷等
	(7) 図書類	書籍、新聞、出版等
	(8) 電子出版物類	CD-ROM等
	(9) 紙・紙加工品類	製紙、紙製品、紙袋、段ボール等
	(10) 車両類	自動車、自動二輪、自転車等、清掃車、散水車、除雪車、ブルドーザー、フォークリフト、トラクター等
	(11) その他輸送・搬送機械器具類	航空機、ヘリコプター、自転車等
	(12) 船舶類	
	(13) 燃料類	ガソリン、軽油、ガス等
	(14) 家具・什器類	木製家具、鋼製家具、建具、事務机、椅子等
	(15) 一般・産業用機器類	印刷機、製本機、ボイラー、エンジン、旋盤、造幣事業用機械器具、印刷事業用機械器具等
	(16) 電気・通信用機器類	家電機器、照明器具、通信機器、音響機器、配電盤、交通管制機器、レーダー、交換機、伝送装置、通信ケーブル、蓄電池、発電器、遠方監視装置、レーダー雨量装置等
	(17) 電子計算機類	コンピュータ、パソコン、汎用ソフトウェア等
	(18) 精密機器類	計量機器、測定機器、試験分析機器、理化学機器、気象観測機器、光学機器等
	(19) 医療用機器類	MRI、ベット等
	(20) 事務用機器類	細断機、複写機、穿孔機等
	(21) その他機器類	厨房器具、消火器具、消火装置、防災器具、自動車検査用機械器具、林業用物品等
	(22) 医薬品・医療用品類	医薬品、医療用消耗品、X線フィルム、検査試薬、医療用ガス等
	(23) 事務用品類	事務用品、文具等
	(24) 土木・建設・建築材料	セメント、アスファルト、木材、石材、砂利、ヒューム管、道路標識、カーブミラー、

		スノーポール等
	(25) その他	運動用具、雑貨、動物、肥料、飼料、農薬、食料品、その他
役務の提供等	(1) 広告・宣伝	広告、映画、ビデオ、広報、イベント企画等
	(2) 写真・製図	写真撮影、製図、製本等
	(3) 調査・研究	調査、研究、検査等
	(4) 情報処理	統計、集計、データエントリー、媒体変換等
	(5) 翻訳・通訳・速記	翻訳、通訳、速記、筆耕等
	(6) ソフトウェア開発	プログラム作成、システム開発等
	(7) 会場等の借り上げ	会議施設借り上げ、設営等
	(8) 賃貸借	建物、寝具、植木、物品等
	(9) 建物管理等各種保守管理	清掃、警備、廃棄物処理、害虫駆除、機器保守、電話交換等
	(10) 運送	タクシー、ハイヤー、荷造り、運送、倉庫、旅行等
	(11) 車両整備	車両、航空機、ヘリコプター等の整備
	(12) 船舶整備	船舶の整備
	(13) 電子出版	C D - R O M製作等
	(14) その他	医事業務、検体検査、フィルムバッチ測定等の各種業務委託、その他
物品の買受け	(1) 立木竹	ただし、国有林野事業特別会計で行う林産物の買受けを除く
	(2) その他	鉄屑回収、古紙回収等